



生徒にブラジルのチョウの標本を贈った衛藤忠  
さん(右)＝豊後大野市大野小中学校中学部



# ブラジルのチョウ 母校に

## 豊後大野出身の衛藤さんが標本

【豊後大野】豊後大野市大野町田代出身でブラジル在住の衛藤忠さん(78)が9日、母校の大野小中学校中学部(69人)に同国固有のチョウ17匹の標本を贈った。「海外の物に触れ、少しでも刺激を受けてくれればうれしい」と話している。

## 「海外に興味持って」

衛藤さんは地元の高校を卒業後、大阪で就職。「このままの生き方でいいのだろうか。何か新しいことができるのではないか」と21歳の時、単身でブラジル・サンパウロ市に渡った。

日本人が経営する農場で5年間働いた後、同国南部のサンタカタリーナ州カサドル市で原生林を切り開き、50畝の農場でモモやリンゴ、トマト、ニンニクなどの栽培をした。2019年に引退し、現在は息子がリンゴ農園を経営するサンジョアキン市で暮らす。

80歳を前にした同窓会が開かれるため4月下旬に一時帰国。その際、「母校の後輩たちにブラジルのことを知ってもらいたい」と考え、日本では手に入りにくい物を贈ることにした。

校長室であった贈呈式では「ブラジルにこんなにきれいなチョウがいることを知ってほしい」とあいさつ。受け取った3年の綿貫麻央生徒会長、羽田野結奈副会長が「めったに見ることができない標本をありがとうございます。大切にします」と礼を述べた。

標本はチョウ17匹がケースに入っている。最大で幅約16センチ、最小で同4センチほど。青や黄色などのカラフルなチョウもいる。加藤陽一校長(57)は「標本をきっかけにブラジルなどの海外に興味や関心を持ち、大きな夢を持つ生徒が増えるように活用したい」と話した。

(山田志朗)



〔問①〕 豊後大野市出身の衛藤さんが母校の大野小中学校中学部に贈ったものは何ですか？

---

〔問②〕 衛藤さんが21歳の時、単身で渡った場所はどこですか？

---

〔問③〕 衛藤さんはどのような思いから母校の生徒に標本を贈ったのでしょうか？

---

〔問④〕 もし今、世界のどこへでも行けるとしたら、どんな国に行きたいですか。そして、  
どんなことを学び、挑戦してみたいですか。あなたの考えを書いてみましょう。

---